

真宗大谷派 光福寺 川西市笹部二丁目十六ー十六

令和八年 五月発行 TEL ○七二ー七九四ー〇一八九

【亡き人を縁として】

「五代前の先祖がたたっていますよ」と言われると、ドキッと
する人は多いかもしれません。しかし、「亡くなったお母さんが
たたっていますよ」と言われればどうでしょう。ほとんどの人は、
「私のお母さんはそんな人ではありません」と怒り出すのではな
いでしょうか。つまり、先祖が迷っているとか、祟っているとい
うのは、亡くなった人のことをはつきりと受け止められていない
私たちの心のすき間につけ込んでくるものなのです。そして、ほ
とんどの場合、それにはお金がからんでいます。

亡くなった人は、すでに喜怒哀楽はありません。ですから、お
内仏（仏壇）に何々を供えろと言うことはありません。また言う
ことをきかないと化けて出るぞということも言いません。にもか
かわらず、生きている私たちの方が、亡くなった人をどうにかし
ないといけないと勝手に思いはからっているのです。

それは、一見すると亡くなった人を大切にしているようですが、
実は自分の人生を守ってもらいたいという気持ちや、災いが自分
におよぶことを恐れる気持ちからきていることが多いのではない
でしょうか。お祓（はら）いなどが流行るのもこのためです。

亡くなった人は、自らの身をもつて、人は必ず命を終えていか
ねばならないということをお教えてくれています。限りある人生を
どのように生きるのかと呼びかけているのです。近しい人の死は、
特にこのことを感じさせられます。亡き人と向き合うことにより、
私たちは初めて自分の人生についてよく考えることができるので
す。

お墓参りに出かけるのも、法事を勤めるのも、それは亡くなっ
た人の生き方に思いをさせ、自分の生き方を見つめ直す大切な機
会なのです。

（一楽真 大谷大学教授）

聞法会
聞法会

5月11日
6月15日

(月) 午後1時～午後3時迄
(月) 午後1時～午後3時迄

お参りをお待ちしております

涅槃堂永代経納骨・墓地・見学受付中

